

令和7年度 江東区立平久小学校 自己評価表

校長名 金岡 香恵

目標に向けた取組についての自己評価

重点領域1		学力の向上 「自ら課題を見付け、進んで問題解決に取り組む子」			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	「学び方スタンダード」の授業規律の確保を全ての教員が100%実施する。	89.9	学び方スタンダードを守って授業に参加できたと回答する児童90%以上にする。	83.9	B
2	対話的な学びを通して自分の思いや考えを表現できるような授業を行うことによって、各教科の児童の資質・能力を高められる教員を100%とする。	95.5	自分の意見や考えを発言したり文章や絵などで表現したりできたと回答する児童の割合を90%以上にする。	79.2	B
3	毎時間、学習のねらいを明確にして、振り返りを行う授業を全教員で100%実施する。	95.5	できた、分かった、次もがんばりたいと考え、学んだことが次時の学習やこれからの生活に活用できると思える児童の割合を80%以上にする。	84.3	A
<p>&lt;結果についての分析と改善策&gt;</p> <p>1 授業規律については、おおむね肯定的な評価であったが、「とてもそう思う」と回答した割合が、保護者46.1%、児童、25.2%、教員9.1%とばらつきがあった。次年度は、より徹底した授業規律の確保をしていく必要がある。</p> <p>2 校内研究授業を通して、自分の思いや考えを表現できるような授業づくりを行ったことから、おおむね肯定的な評価となったが、「とてもそう思う」と回答した割合が、保護者43.6%、児童45.5%、教員9.1%とばらつきがあった。次年度は、より、表現することに対して苦手と考える児童に対して、丁寧寄り添って指導をしていく。</p> <p>3 校内研修をとおして、学習のねらいや振り返りの意義を教員が学ぶ機会を設けたことにより、「とてもそう思う」と回答した割合が、保護者41.4%、児童41.1%、教員45.5%と、一定の水準を保つことができた。肯定的な評価も、保護者、児童、教員ともに、8割以上となった。次年度も継続した指導を行っていく。</p>					

重点領域2		豊かな心の育成 「思いやりのある豊かな心を持ち、自他を大切にする子」			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	全校朝会や集会の時間を活用して、児童に自らの生活を振り返らせ、主体的によりよい学校生活を送ろうとする態度を育成する教員を100%とする。	80.9	学校のきまりを守って生活できたと回答する児童を90%以上にする。	68.1	B
2	全学級で、いじめ防止・思いやり・温かい言葉によるコミュニケーションの大切さを扱った道徳の授業を年3回以上実施する。	100	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと回答する児童を100%にする。	93.4	A
3	全校児童が年間を通して植物の栽培活動を行い、動植物を慈しむ心を育成する教員を100%にする。	77.3	植物を大切に育てることができたと回答する児童を90%以上にする。	87.1	B
4	人権を尊重して教育活動を行う教員を100%にする。	95.5	自分も友達も大切にできたと回答する児童の割合を90%以上にする。	95.5	A

<様式1>

<結果についての分析と改善策>

- 1 学校のきまりを守って生活することに対して、肯定的な評価は、保護者、児童、教員ともに、7割以上の評価が得られたが、「とてもそう思う」と回答した割合は、保護者 44.5%、児童 33.9%、教員 13.6%という結果となった。きまりの意味を改めて考える機会をもって、安全で安心できる学校生活を送ることができるようにしていく。
- 2 いじめ撲滅については、肯定的な評価が9割以上となった。次年度も、3回のふれあい月間はもちろんのこと、年間を通して、いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で、教員が組織的に対応していく。また、保護者の方々の理解を得られるよう、学校教育における取り組みを発信していく。
- 3 全校で取り組んでいる菊やチューリップの栽培を通して、植物を大切に育てる心の育成についての肯定的な評価が7割以上となった。猛暑の対策を考えながら、次年度も、植物を育てる活動を行っていく。
- 4 人権を尊重する教育活動において、自分も友達も大切にできたという肯定的な評価が9割以上となった。一方で、「とてもそう思う」と回答した割合は、保護者 44.5%、児童 66.5%、教員 22.7%とばらつきがあった。教育活動全般において、人権を尊重した活動を重視していく。

【心の教育推進校として「特に育った心」】

保護者 ・思いやりの心・楽しむ心・一生懸命に取り組む心・自分も相手も大切にする心  
 児童 ・楽しむ心・あきらめない心・思いやりの心・努力する心  
 教員 ・楽しむ心・思いやりの心・あきらめない心・一生懸命に取り組む心

重点領域3		体力の向上 心身ともに健康で、粘り強く取り組む子			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	体育朝会や、持久走週間の内容を充実し、体力の向上を図ることを全教員が100%実施する。	90.9	すすんで運動する習慣が身に付いたと回答する児童を90%以上にする。	79.6	B
2	毎月、アウトメディアデーを中心として、心身が健康な生活を送ることができるような指導を全教員で100%実施する。	72.7	アウトメディアデーを意識して、タブレットやSNSの正しい使い方ができたと回答する児童を90%以上にする。	92.6	A

<結果についての分析と改善策>

- 1 体力の向上を図るうえで、すすんで運動をする習慣が身についたと肯定的な評価がおおむね8割以上となった。次年度も、年間を通して計画的に体を動かす楽しさを味わうことができるようにしていく。
- 2 タブレットやSNSの正しい使い方については、肯定的な評価が9割以上であったが、「とてもそう思う」と回答した児童の割合が56.6%に対して、保護者と教員は「そう思う」と回答しており、考えに相違が見られた。改めて、正しい使い方を児童とともに考えていく必要がある。

重点領域4		地域・保護者との連携 ～開かれた学校づくり～			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（保護者側）	達成度	評語
1	学校での生活や学習の様子を学校公開や学校だより、ホームページ等で積極的に情報発信する。	100	学校便りや学年便り、ホームページ等で積極的に情報発信していると回答する保護者が90%となるようする。	96.9	A
2	学校を運営する際、保護者や地域、PTA、地域学校協働本部、外部機関と連携する。	100	学校は保護者や地域、併設幼稚園等と連携して学校運営を行っているとは回答する保護者が90%以上にする。	93.8	A

<結果についての分析と改善策>

- 1 今年度は、年度始めから手紙をメール配信することができた。「平久だより」は、毎月20～25日に発行することができ、少しでも、月の予定を周知することを努めた。ホームページでは、児童の様子を積極的に配信した。今後も、継続していく。
- 2 学校、保護者、地域等との連携については、9割という肯定的な評価を得られた。「とてもそう思う」と回答した保護者が50%であったので、さらに、教育活動の取り組みを分かり易く伝えるなど、工夫して、発信していく。

【評語】 成果指標（こども側）の達成度に応じて決定する。

A：90%以上（目標達成とみなし、次年度は新たな目標を設定する）

B：50%以上90%未満

C：50%未満（目標や努力指標等を見直す）